

## 財務の概要 -2021年度決算について-

### 1. 概要

2021年度は、新病院棟建設に加え、大学統合、梅田健康医学クリニック開設という主要プロジェクトの完遂に向けた経営基盤安定のため、持続的投資を可能とする基本金組入前当年度収支差額 1,623 百万円を期初予算に計上しました。新型コロナウイルス感染症により、教育・研究・診療に大きな影響を受けたものの、業務運営の効率化や経費コントロール強化への一層の取組みに加えて、多額の公的支援という特殊要因もあり、基本金組入前当年度収支差額は、期初予算比 4,971 百万円増、前年度比 2,036 百万円増の 6,594 百万円の黒字決算となりました。

### 2. 事業活動収支計算書（表 1・2 及びグラフ）

#### <教育活動収支>

#### ① 教育活動収入

教育活動収入は 62,345 百万円となり、前年度比 3,854 百万円の増収となりました。

教育活動収入の大半を占める西宮本院の医療収入は、新型コロナウイルス感染症の影響などによる病床稼働率の低下を入院単価の上昇でカバーしたことに加えて、外来患者数の増加、外来単価の上昇が大きく寄与したため、前年度比 1,071 百万円増の 40,494 百万円となりました。

また、経常費等補助金は、経常費補助金が前年度比 192 百万円減少した一方で、感染症対策に係る補助金が前年度比 2,539 百万円増加したことから、前年度比 2,423 百万円増の 6,227 百万円となりました。

#### ② 教育活動支出

教育活動支出は、56,105 百万円となり、前年度比 1,611 百万円の増加となりました。

人件費は、コロナ感染症対応の諸手当、退職金関連費用、新たに導入した退職年金確定拠出金の増加により、前年度比 465 百万円増の 23,924 百万円となりました。

一方、教育研究経費は、奨学金などが減少したものの、修繕費、光熱水費、損害保険料が増加したため、前年度比 299 百万円増の 5,094 百万円となりました。

また、医療経費は、高額医薬品の使用増加に伴う薬品費の増加などにより、前年度比 799 百万円増の 25,519 百万円となりました。この結果、医療収支差額は前年度比 256 百万円の改善となりました。

#### <教育活動外収支>

教育活動外収支は、有価証券の積み増し・入替えなどにより、受取利息・配当金収入が増加したため、前年度比 34 百万円増の 117 百万円となりました。

#### <特別収支>

開学 50 周年記念事業募金に係る施設設備寄付金が増加したものの、前年度増加した

有価証券売却差額や施設設備補助金が減少したことなどにより、特別収支は前年度比 242 百万円減少し、236 百万円となりました。

### 3. 資金収支計算書（表 3）

資金収支については、資金運用により資産運用支出が資産売却収入を上回りましたが、その他の収入の増加、支出の減少により、翌年度繰越支払資金（現金預金）は、2020 年度末 13,301 百万円より 533 百万円増加し、13,834 百万円となりました。

### 4. 貸借対照表（表 4）

2021 年度末の貸借対照表の純資産（資産の部－負債の部）は、資産の部の大幅増加に対し、負債の部は微増にとどまったことから、前年度末比 6,594 百万円増の 81,481 百万円となりました。

資産の部は、余剰資金の効率的な運用に伴い有価証券等が増加した一方、減価償却費の計上等により、7,061 百万円増加し 110,659 百万円となりました。

負債の部は、退職給与引当金、未払金が増加した一方、借入金、前受金が減少した結果、468 百万円増加し 29,178 百万円となりました。

なお、2021 年度末の総保有資金残高は、前年度比 8,103 百万円増の 34,243 百万円となりました。

### 5. 主要財務比率の推移（表 5）

表 5 にて財務比率の推移を表しています。比率の意味、主な留意点等を表の次頁に記載しています。

### 6. キャッシュ・フローの推移（表 6）

「教育研究活動」「施設等整備活動」「財務活動」の活動区分ごとのキャッシュ・フローの推移を表しています。それぞれのキャッシュ・フロー計算書は、他の会計基準とほぼ同様の区分等の手法を採用して作成しています。

以上